

# ティーロ・ノーリのカルト

The Cult of Teelo Norri

## イントロダクション

ティーロ・ノーリは七母神の一人として崇拝されているが、彼女自身のカルトも存在する。彼女のカルトは強力ではなく、精神的な充足感程度しか信者に与えないが、それでもこのカルトはルナーの宗教と同様に賞賛される。

## 1. 神話と歴史

ティーロ・ノーリは赤の女神の定命の器であった思春期を終わろうとしていた少女であった。彼女はダンファイブ・ザーロンに呼び止められそして殺されるその瞬間まで、完全に汚れない存在であった。赤の女神はティーロ・ノーリの死体から歩み出た。赤の女神の司祭がティーロ・ノーリの信者でない者には知られていないことだが、たとえ霊的なものであるとも赤の女神の誕生においてははるかに多く多くの役割を有していた。

ティーロ・ノーリは、殺害された時ヴォーリアの入信者であった。彼女が殺された時、他の七母神の全てと同様に、彼女は自身の神と対立した。しかしヴォーリアは好戦的な女神ではなく、偉大な魔術や技術、知識の女神ではなかった。ヴォーリアとの対立は、他の神性との対立よりより純粋でより根本的なものであった。彼女が赤の女神の核心となるのにふさわしく、ティーロ・ノーリの対立は純粋に道徳的なものだったのである。彼女が、ヴォーリアがしなかったこと、つまり弱いもの、汚れないものを護るために行動することを厭わないのを示したため、ティーロ・ノーリはその対立に勝利して目覚めた。ティーロ・ノーリは年若き者や弱者を助けるために、ターニルズ公爵の剣、ジャーカールルの呪文、オントールの知恵、さらには自らを殺したザーロンの狡猾さを求めた。この助けがあった、彼女は勝利したのだ。

今や彼女は赤の女神の給仕係であり、子ども、貧者、そして彼女のやさしい助けを必要とするもの全ての者の後援者である。

## 2. カルトの生態

ティーロ・ノーリは天空や嵐の宗教でヴォーリアの地位に似通った、しかしながらより広範な役割をルナーの宗教で勤めている。彼女は子供たちの女後継者であるが、無力な人や弱者全てにも彼女の関心は広まっている。彼女は外国の若者が女神の内部に入り、それによって一時的に世界の暴力から逃れる方法としても機能している。ルナーの道に完全に包まれていない地の若い男女は彼女の避難所に喜んで受け入れられ、彼らの精神的な騒動からの慰めを与えられる。

彼女の聖日は「闇の季」「無秩序の週」「神の日」である。その日は赤の女神の生誕日である。ティーロ・ノーリは他に特別な聖日を持ってはいないが、しかし儀式は各社において赤い月が満月になる日に行われていると言われている(訳注:ルナー南部の地域では「荒れの日」、ルナー北部だったら「土の日」あたりであろうか)

## 3. 世界におけるカルト

このカルトは評価できるだけの力を持っていない。魔法は実には僅かにしか認められない。司祭職はなく、入信者以上のほかの階級も存在しない。ルナー帝国の全ての子どもは自動的にこのカルトの平信者である。

このカルトは帝国の正当な子供たちに基本的な教育を与える世話をしており、属領地の教化を促進する。カルトは巨大な慈善機関を運営しており、帝国と占領地のすみからすみまで計画を援助している。そのようなチャリティーは個人的な寄付と帝国の税金によ

て賄われている。それはその身分(訳注:平信者のことか?)に気まぐれな若者を引き付けることにより、ルナーの道に占領地の政治的移行を助ける働きを持っている。それは彼らの父の神が不足に見える悩める魂を見出し、女神の慈悲、愛、そして知恵を彼らに示す。

ティーロ・ノーリの入信者が持つ唯一の特殊な“力”は、嘆願である。これは、彼らが相手のカルト特性に係る援助のために他のルナーカルトの入信者に請願する権利を有している、という意味である。嘆願者は結果について保証されないが、どのような拒絶であれ赤の女神の司祭に直接報告される。ティーロ・ノーリの信者も赤の女神の司祭への報告を拒否することはできない。

ティーロ・ノーリとダンファイブ・ザーロンのカルトの関係は複雑である。一方では、ダンファイブ・ザーロンによる定命であったティーロ・ノーリの謀殺からいくらかの摩擦がある。もう一方では、この謀殺が彼女の神格化である。さらにダンファイブ・ザーロンは、ルナーの道の告解者の復帰の後援者である。この結果、ダンファイブ・ザーロンの信者とカルト組織はしばしばティーロ・ノーリのカルトの中枢や伝道師の秘密の護民官として働く。ティーロ・ノーリの慈悲深い働きのための資金のかなりの分量はダンファイブ・ザーロンのカルトの金庫から来ている。しかしながら、この援助はほとんど常に隠密裏に行われている。従ってダンファイブ・ザーロンの信者は配給所を襲うようなストリートギャングとの争いを選ばないが、地方の警官隊は常にどういわけかこの手のギャングについての卓越した情報を得ているように思われる。ダンファイブ・ザーロンのカルトは情報収集の場としてティーロの慈善活動所を手近の用途としている。

## 4. 入信者

入信希望者は処女または童貞でなければならず、通常は女性である。彼女は法律上の孤児となることで家族と縁を切らねばならず、またカルトに全財産を寄贈しなければならない。その上でPOW x 5に成功しなければならない。ロールに成功すれば、POWを1ポイント捧げることで入信者としてカルトに参加できる。ロールに失敗した場合、一文無しの孤児はティーロ・ノーリの奉仕を共にすることを許され、一年の間処女性を保ち続け、昔の親戚と接触を持たなければ(従って“孤児”であり続ければ)次の年に再度挑戦できる。

認められた上で、入信者は(混沌のものを含め)全ての知性ある生物に対する完全な非暴力主義の誓いに同意しなければならない。入信者は、清貧、純潔、奉仕の誓いをする。入信者はティーロ・ノーリの機能を管理している赤の女神の女祭の命令に従う。入信者はそうすることで全ての存在に対して奉仕する慎ましい人生を生きるのである。たいいてい土地では、これは孤児院や貧民救済院で教え、働き、ちょっとした癒しを行うことから成り立つ。ルナーの道を完全には受け入れていない地方では、ティーロ・ノーリの信者はしばしば宣教師としての職務を引き受け、運命と女神が高潔とする殉教ささえいとわれない。

**カルト技能:** 応急手当 ティーロ・ノーリ(カルト?)知識 雄弁(物語) 教授(訳注:説明なし)ルナー帝国知識 演奏

**精霊呪文:**《治癒》(2ポイントまで)《魅惑》《お説教》

**禁止される精霊呪文:** 全ての戦闘補助呪文、全ての《呪付》《命令(生物)》《暗闇の壁》《消沈》《破裂》《鈍剣》《防護》

**神性魔術:**《破門》《聖域》《赤の女神(ティーロ・ノーリ)礼拝》《入信》

カルトの誓いを破ったがルナーの道を破っていない入信者は、最初ならば叱責される。二度目はカルトを抜け、違反者の性質に合ったルナーカルトを探すよう命令される。この仕組みは生まれ変わりの儀式であり、通常はザーロンのカルトによって援助される。赤の女神のカルトへの入信を成し遂げることは高い美德とされ、ティーロ・ノーリの業務を統括する赤の女神の司祭は高い割合でかつてティーロの入信者であったものである。

ルナーの道を破ったり、他の方法で背教者となった入信者は、ルナーの道を破ったり、またはノ加えて、背教したほかの七母神の信者と同様の扱いを受ける。

## 5. ティーロ・ノーリ特殊精霊呪文

《お説教》 Admonish

2ポイント、遠隔、残照、能動

術者は対象の悪事を叱らねばならない。この呪文の効果を出すために、術者は対象のMP抵抗を打ち破らなければならない。

術者が対象を叱っている間、対象は動くことができず、時折、「でも[But]...」とか「そうじゃなくて[I meant]...」とか呟くことしかできない。対象が攻撃されたら、呪文は解けてしまう。術者は悪事を行ったところか、行おうとしているところを目撃しなくてはならない。この呪文のもっとも一般的な使われ方は、ティーロ・ノーリの信者によって護られている者を脅かす存在に対してである。

## 6. その他

### 冒険でのティーロ・ノーリ

この冒険者はハック&スラッシュを求めているプレイヤーには上手く行かないでしょう。ティーロ・ノーリ信者は問題を解決するために単純に切り刻むことができない存在としてキャンペーンに余興を提供する。殉教はカルトの美德である。更に彼らはほとんどのルナー市民によって無害で有徳であると考えられており、帝国は彼らを征服した人民との“信義と信念の戦い[the battle for the hearts and minds]”の重要な軍隊として考えている。PCに対処する時は、ティーロ・ノーリ信者の優しさ、高潔さ、純真さを強調すること。ストーム・ブル信徒でもないかぎり、ティーロ・ノーリ信者に手を挙げるのは気が引けるであろう。

### 変わり者を救え

あるPCは、彼の甥が突然正気の沙汰とは思えない行動をとっているとの知らせを受ける。甥は剃髪し、持ち物を全て与え、赤いローブを着込んでペリーを配るために走り回っていた。父親が彼を閉じ込めようとしたら、彼は逃げ出した。甥が最後に見かけられたのは、最寄りの大都市であり、目撃者はPCたちであった。家族は何をしているのかを知りたがっている。PCが調査をすると、崇高な笑みを浮かべた甥を都市の貧民街で見つけることができる。彼は叔父を認め、心から歓迎する - そして叔父に新しい友人に会いたくはないかと尋ねる。PCが合意したら、最も近いティーロ・ノーリの貧民救護院に連れて行かれ、花を彼らに贈り、“女神の慈愛”について彼らに話したいと望む笑顔の少年少女らにつきまとわれる。PCたちが暴力や誘拐を試みるならば、PCはティーロ・ノーリ信者の全てが、例えどのような国籍であろうとも、完全なルナー市民と同様の保護を受けていることを悟るだろう。あるいはPCがルナーびいきであったら、彼らは野蛮な昔の親戚から“哀れな誘拐されたティーロ・ノーリ信徒”を助け出すように依頼されるかもしれない。

### でも...、でも...、でも...

PC達は逃げて行く背の低いブルーのような生物に出くわす。追跡すると、ブルーはPC達に分かれるか、一列になって進むのを強制されるような荒れ地へと先導する。どちらのケースでも、開拓地へと首尾良くブルーについて行った最初のPCは、もし暴力的に見えるなら、高いPOWを有した《お説教》により襲われるでしょう。パーティーのほかのメンバーは、恐らく荒く紡いだローブを身に纏った小さな(他の人間型のPCよりもかなり小さい)少女に説教されて困惑している不運な仲間に出くわすでしょう。目の良いPCは、彼女の後ろの茨の藪から覗いている小さな山羊頭の生物を見つける

ことができるでしょう。この格別なティーロ・ノーリ信徒は“女神の御名において救うべき哀れな魂”を求めて放浪していた際に、何匹かの若き野生のブルーに出会った。彼女は彼らをおびき出し、養うための十分な美味しい菓子と食料を持っており、現在“女神の慈愛のもとに彼らを育てる”ことに挑戦している。(もしあなたが意地悪にしたいと思うなら、彼らをフマクトかヤーナファル・ターニルズを信仰しているブルーによって守護させ、PCのうちのフマクトかヤーナファル・ターニルズ信徒にこの地を去るように強制するために名誉の決闘を挑むと良いだろう。)

### ありがとう、お嬢ちゃん

現地の対ルナー地下組織で重大な情報漏れがある。情報漏れの真実は、(近頃ティーロ・ノーリにより設立された)現地の配給所が、ダンファイブ・ザーロンの密偵によって“情報収集の場”としても使われている。密偵はこっそりと酒を持ち込み、幾人かにこっそり飲ませ、“友好的な会話をする”のである。配給所を運営する赤の女神の女祭は、最近の寄付の驚くべき額故に、目をつぶっている。この件は幾つかの見地から冒険になりうる。PCがルナー派なら、配給所の幾人かの後援者が死んでいるのに気がつくかもしれない、カルト当局が何が起きているか見極め、それを止めることをPCに命じるかもかもしれない。不幸にも、PCは、死んだパトロンが警備情報の漏れを防ごうとした反ルナーとの縛れで死んだダンファイブ・ザーロンの密偵である、ということ教えられてはいない。PCが反ルナーなら、彼らは調査し、情報の漏れを防ぐよう命じられるかもしれない。

## 7. この文章について

著者: Bryan Maloney

翻訳者: RIZE / 奥田和幸 (zorak@nifty.com)

協力者: 村瀬尚之氏

このカルト記述はBryan Maloney氏が作成した物を、RIZEが翻訳した物です。翻訳に関して、村瀬尚之氏に多大な協力を頂きました。感謝いたします。

この文章は公式版ではありません。この文章の使用に関しては、各人で判断して下さい。この文章の使用により、なんらかの不利益を被ったとしても、著者、訳者並びに協力者は何ら関知しません。

この文章では、既に翻訳されていたサークル「日の出工房」さんの文章を参考にさせて頂きました。